

昼なのに薄暗い森。地面もなんだかフワフワして  
気持ち悪く摩訶不思議な世界。  
ここは、魔族が住みつく魔界空間。魔族には  
住みやすいが人間には到底住めない環境の中、  
一人の少女が歩いていていた。

少女「ここは、どこ？私、街中を歩いていたらはず  
なのに……。」

道なき道を不安そうに歩く少女。彼女はさっきまで  
普通の住宅街を歩いていたが、ふと気付くと  
この暗い森を歩いていたのだ。

少女「ううう、誰か！誰かいませんか？」

彼女は、不安がピークになり大きな声で叫びだす。  
すると……

??「お嬢ちゃん、お困りかね。」

少女「わああ！人がいた！あのー、助けてくだ  
さい。私ここがどこかわからなくて……  
きゃああああ！」

少女は声が出た方へ振り返ると、そこには見たことがない緑色の生物が立っていた。

少女「ひゃっー！ば、バケモノ…。」

?? 「バケモノとはひどいなあ…まあ、人間じゃないけど。ケケケ…。」

少女「い、いやあー…こなにこええ…。」

少女は、しばらく謎の生物と見つめあっていたが、恐怖で自然と逃げ出していた。しかし…

?? 「おっと逃がさないよ…。」

少女は、あっさりと緑色の生物の触手で捕まっていた。



きゃあああ、いやああー  
離してええー!!!

お嬢ちゃんどうして  
行くんだい？

いやあああ

うっうっ、おつちに  
おつちに帰る!!!

それは、できないなあ。  
それより遊ばしー!



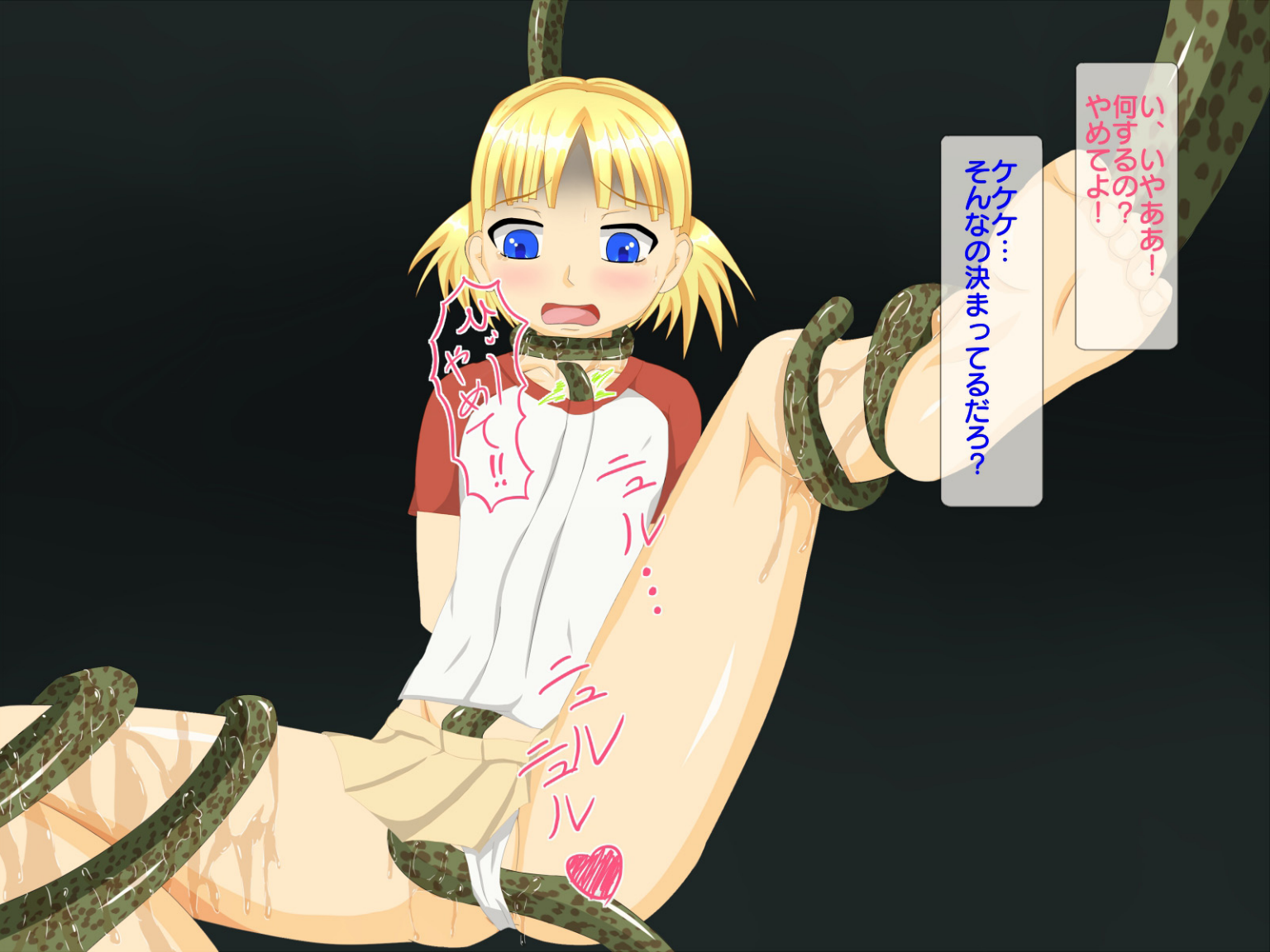
い、いやああ！  
何するの？  
やめてよー！

ケケケ…  
そんなの決まってるだろ？

んやめ！！

ニル…

ニル  
ニル  
ニル



お嬢ちゃんの体で遊ぶんだよー！

きやあああ！

キンやああああ

ケケケケ…  
いい体してるじゃないか！  
どこから遊ぶ？

や、やめてえええ…

びりびり  
びりびり  
びりびり  
びりびり



やめてえ、気持ち悪いよ〜

ケケケケ…  
ほんとに気持ち悪いのかい？  
僕は気持ちいいよ！

い、いやだ…  
ああ、そなた…  
触らないで！

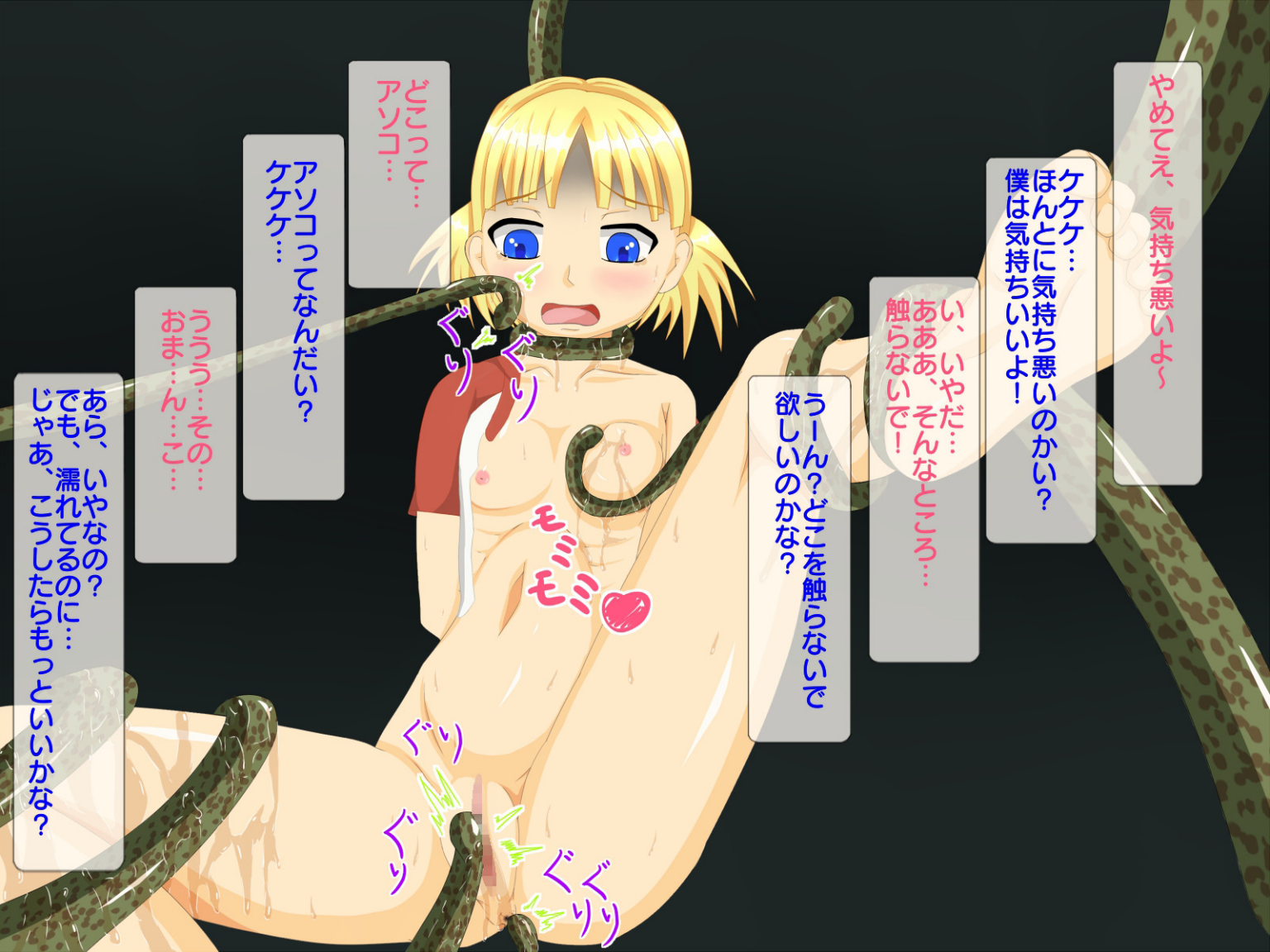
うーん？どごを触るなごべ  
欲しいのかな？

どごって…  
アソコ…

アソコってなんだい？  
ケケケケ…

ううう…その…  
おま…ん…

あら、いやなの？  
でも、濡れるのに…  
じゃあ、こっしたらせつないかな？



くあああ…ああああ…

入った入った！おれの息子がね…ケケケ…

あがが…いたい…

気持ちいいって？  
じゃあ、こつしたらびびりかな？  
グリグリ…と。

うががが！！

ぎゃあああ…い、いや、痛いから動かないで…！！

ケケケ…なかなかいい反応するなあ。  
じゃあ、そろそろ動くか！

う、動くって…ちょ…

わっ！！

モミモミ

ジュブ！！

メリ  
メリ

ジュルルル









うほおおおおおおおー!!!

あああ! 射精<sup>で</sup>る! さっきより  
多く射精る!

うがあああ... いうーく...

ケケケケ:  
気持ちよかつたぜ!  
お嬢ちゃん! でもよ、  
もっと気持ちいいこと  
してあげるぜ!

ゴボ  
ドジュー!  
ドジュー!  
ドジュー!



化け物「ケケケ…気持ちよかったぜ！  
でも、まだまだ気持ちよくなりたいだろ？」

?? 「彼女はそう思っていないと思うけど。」



化け物「んん…？誰だ…！」

緑色の生物は驚き、声が出た方を振り返る。

「ブシヤアアアアア！」

化け物「ぎゃああああー！腕があああー！」

振り返ると同時に少女を拘束していた触手は、真っ二つに切り落とされていた。

「？」「その触手、腕なんだ！」

化け物「いてえ！ちくしょう！貴様は一体なんだ。うん？白銀の髪に赤い目、まさか？」

「ブシヤアアアアア！」

化け物「ぎゃああああー！」

「？」「あんたに名乗る必要ないわ！この変態ヘビ野郎！」

謎の少女は、緑色の化け物の胴体を薙刀で真っ二つにしていた。



?? 「ふう、これでよし。君大丈夫?…犯されて大丈夫じゃないか…。あ、あれ?女の子はどこにいった?」

白銀の少女が先程まで緑の生物に犯されていた少女の方に振り返るとそこにはいなくなっていた。

?? 「ケケケ…白銀の髪に赤目、魔法少女だな。」



白銀の少女は声が出た方に振り向く。そこには、  
緑色の生物が少女を触手で抱えていた。

?? 「え? な、なんで生きてるの?... いや...  
あんたさっきのヘビ野郎じゃないわね!」

化け物 「ケケケ...。そうだぜ。さっき斬ったのは  
俺の兄貴だ。魔法少女よ!」

?? 「ふん、当たり前でしょ。あんたも真つ二つ  
にしてあげるわ。」

化け物 「おっと、勝てねえ勝負なんてしないぜ!  
俺はここでズラかるぜ!」



緑の生物はそう言うと、少女の体を触手で高く持ち上げる。そして、下半身をうねうね動きながら暗い森の中へと消えていく。

?? 「な！逃げるなんて！ちよつと待ちなさい！  
私に素直に殺されなさい！」

白銀髪の少女は、緑の生物を追いかけようとしたが…







?? 「うーこれって…まずい…！魔力切れだ！」

白銀髪の少女は、すぐに追いかけるのをやめる。するとすぐに、少女の髪が白銀から黒髪になり目も赤色でなくなつた。そして、少女の服がだんだんと透けていく。

?? 「ひーひー…変身がとけちゃう…！」



?? 「ああんー!まづいよおな!」

そして、ついに少女の服が完全に消滅し少女は全裸になってしまった。さらに、辺りが一変する。今まで暗い森にいたが、ほとんど明るくなり、景色が変わっていく。気付くと人間世界が住む町中にある公園へと変わっていた。魔界空間に連れてきていた緑色の生物の消滅によって強制的に元の世界に戻されたようだ。

?? 「こんな格好を見られたら...  
ただの変質者だよ。」

?? 「おーらーんら、ふんた〜」

?? 「ああー!誰かこっちに来る!」



「いたいた！そら無事か？」

そら 「りく！！よかつたああ！こんな格好他人に見られたら大変だったよ！」

公園にやってきたのは、少女の同級生の森浜りくという少年。そして、全裸少女の名前は河合そら。ちなみに二人は恋人同士である。

りく 「無事そつたな！」

そら 「私があんな化け物に負けるわけないでしょ！それより……！」





そら「どうすんのよ!」

りく「だ、大丈夫だって!ここから神社は近い。  
走れば誰も見られないって!  
よし、撤収しよう!」

そら「えええええ!!冗談でしょ?なんで全裸  
マラソンなんてしないといけないのよ!  
ちよっと待ちなさい!!りく!!」

と、恥ずかしそうに体の一部を隠しながら、そら  
もりくを追いかけて走り出した。







そらとりくは、公園から走って林の中にある神社へとどうにか辿り着いた。  
その距離およそ1kmぐらいだろうか？  
ほんとに運がよく誰ともすれ違わなかった…  
と思われる。

りく「はめはめはめ…ほらっつん」  
かなったたるー！

そら「どごがよーもう最悪ーもうお嫁に  
いけないー！！」





そろそろ「もう！わざわざ変身前に服を脱いだのに  
まさか、そのままにしてあるなんて！  
てか、この状態はどう思うのよ！」

そろそろ「俺が抱かれるのって何でか...  
俺も「見てほしうらな...」

そろそろ「自分で言うな！バカ！」






そら 「ほんと最悪よ。裸マラソンしないと  
いけないしへど野郎に逃げられるし。」

りへり 「え？逃げたのか？」

そら 「そうよ！魔力さえ切れなければ、  
追いかけたけど。」

りへり 「…今まで逃げるなんてあったか？」



そら 「ないわよ！逃げる姿も滑稽よ！  
意外と足遅いし。……て、話しを  
逸らすな！！さて、どうやって  
ミスを補ってもらおうかしら？」



「おはようございます」

「…おはよう」

「おはようございます」

「おはようございます」



ちよっとー痛いじゃないー！

おぢーね。ぶ。まじ濡れたいのじゃなごかっ

な？！このスケベー！どう見せるのよー！

どうして、なにが面白い...

もう、平然と言わないでよー！

そらが聞いたんだらっつてはっつてっつかな？

しろん



ひゃあああ！ああああんん！♡  
や、やめ…ああん♡

おおお、うっせーおしめしました。

ああん！ほんと…ああん♡  
ひゃいいい！くりちゃん擦れろっ♡

気持ちいいだろ、ぞらー！

くちゅ  
くちゅ  
ねちゅ  
ねちゅ

やああ

あん

そんなことにはい♡ああん♡だから…  
やめて…ああああん♡

えーやめてほしいの…？仕方ないな！

ああん♡…んん？…なんで…止めるの？

ちや、ちやめいし言ひなむ。

…りくの意地悪…

どこがだ！…やってほしいんだろ？  
お願いする時はどうするんだ？そら？

アビ  
ン

。。。  
し  
し  
し

ううう…ごめんなさい、りく。続けて…  
私のおまんこをりくの指でぐちゅぐちゅにして  
イかせて…私のおまんこをイかせて下さい。

まやあ♡指がおまんこを擦って♡

最初がっ握抗すぬぞ。  
めんどくらくな。

ひゃひゃひゃああん♡ごめいっ—  
りくの指…おまんこ♡…くちゅん  
がこしゅれぬ♡♡♡♡♡

くちゅん  
くちゅん

ねちよ  
ねちよ

もやあ

あん

あああん♡あん…もうダメ…イク♡  
もうイっっちゃう♡イクイクイクイク♡





よし、次だ。よろこぶよー

きゅあ♡まだイッたばかり♡  
敏感で…あへへ♡

♡あひるむきあひる♡

ちゅぱちゅぱ♡ふあー！  
もうキス激しすぎ♡あへへーちゅぱ♡

ドロッ  
ン

ちゅぱ  
ちゅぱ  
ちゅぱ

ちゅぱちゅぱ♡はっ、もう…  
入れていいか？

うん♡りくの太っとい  
チンポを入れて♡



あひゃあああ♡ちんぽきた  
太っといのきたああ♡

ふあああ、動いて！ちんぽ動いて♡

ちゅぽちゅぽ♡

ふあああ♡動いて！ちんぽ動いて♡

ふあああ

ちゅぽちゅぽ  
ぱぱぱ

ズブズブ！！

ズブズブ！！







ちんぽ汁！

ドコッ！！

ポッ

ドコッ♡  
ドコッ♡

ドコッ♡  
ドコッ♡

うあああ……ザーメンが…絞っ  
取られるの……

ふああああ♡ちんぽ汁きたああー  
りくの濃いザーメンいっばい♡

♡ドコッ♡  
♡ドコッ♡

しゅごか…ふあめめ♡  
ちよ…連続??

はあはあ…まだ出し足りないうー…  
まだまだ出すぞー…!

しゅごい♡ちんぽがまたギンギン♡  
キスして♡ちゅぽちゅぽ♡

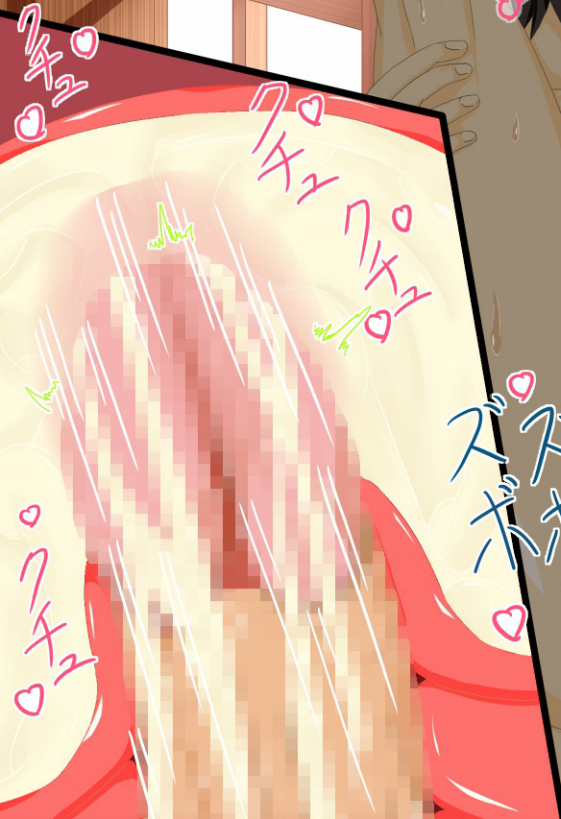
ちゅぽちゅぽ♡ぶはー…  
またイキまじろ…イへー…!

ふああ

ちゅぽちゅぽ  
パッパ

ズズズ  
ポポポ  
ズズズ

ズズズ  
ポポポ





うっそん♡りくまだやるの？  
私もう…ああん！激しい♡

はあはあはあ♡むとむと  
締めつけてくー！

ああん♡私…ああ…もう  
いつちやうかも♡

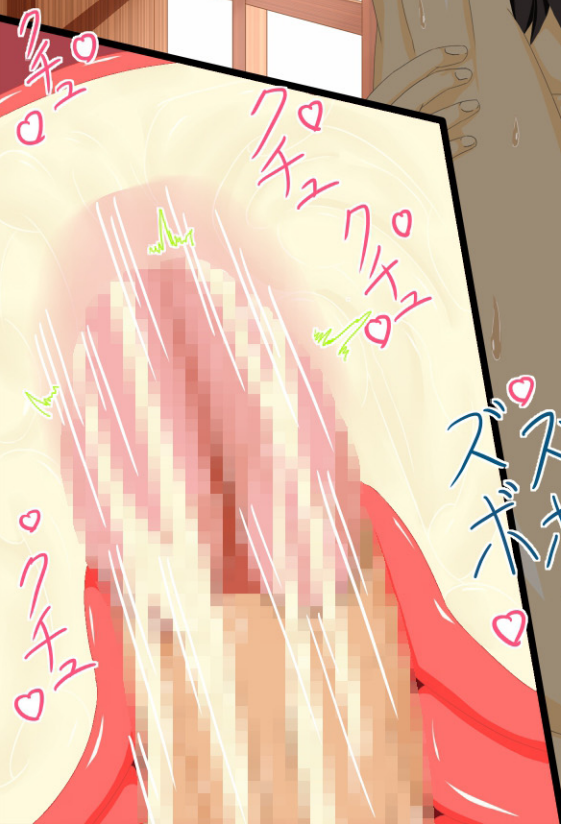
はあはあ、そうか！俺もそろそろ  
またイクーイクううー！！

うっそん♡

チ○チ○  
パ○パ○

ズズ  
ボボ  
ズズ  
ボボ

ズズ  
ボボ  
ズズ  
ボボ





おほほほ♡ザーメンきたあ♡  
あああ、イク♡イクイクイク♡

うああああ！  
すさまじい締め付けあががが…！

あ…ああ♡あん♡あ…！

はあはあ…気持ちよかった。  
そろっ？あ、失神してるわ！

おうおう♡  
ちんぽ汁で  
イク♡

ポッ♡

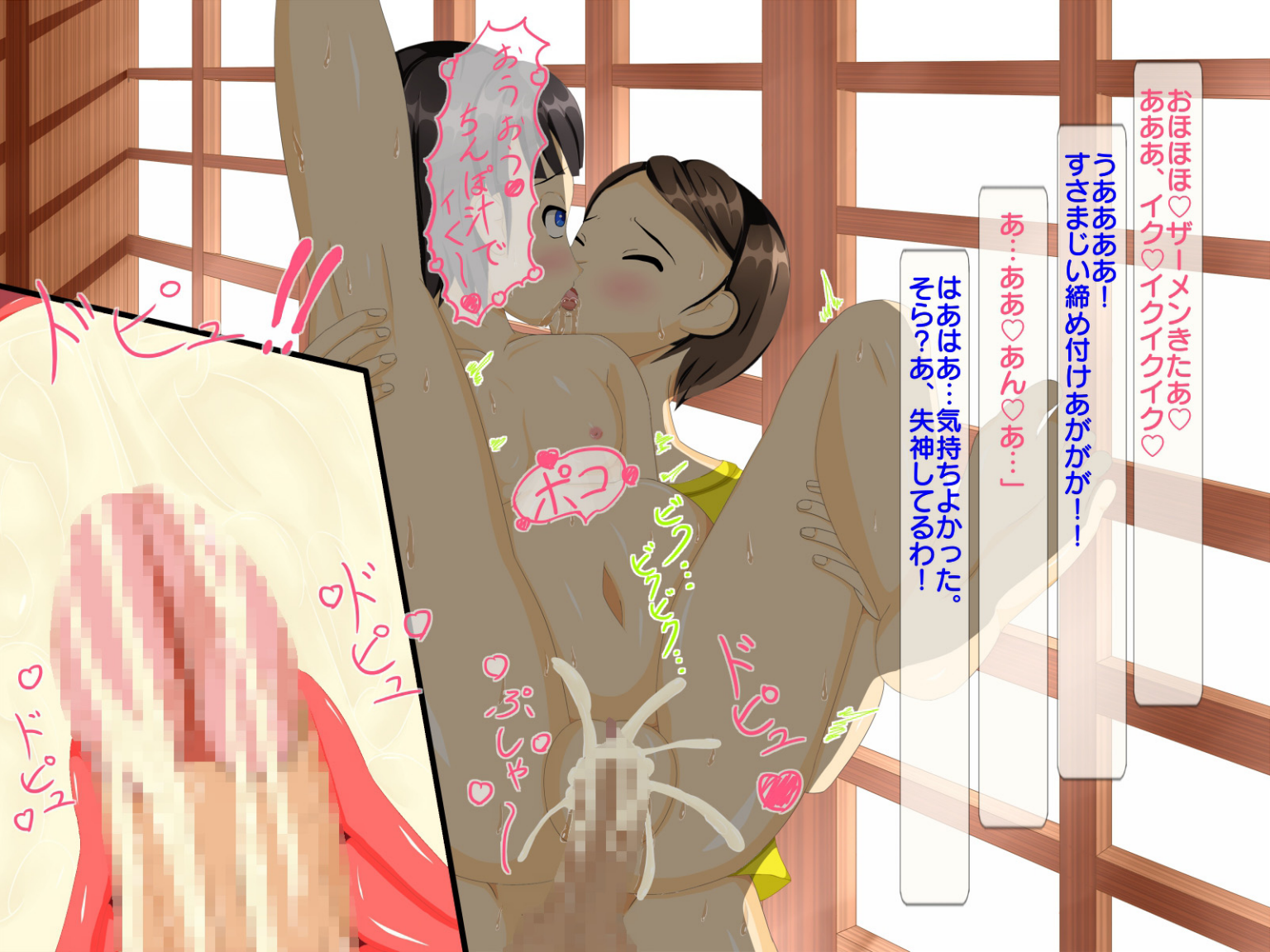
うっ…  
うっ…  
うっ…

ド♡  
ド♡  
ド♡

ぶ♡  
し♡  
ゃ♡  
っ♡

ド♡  
ド♡  
ド♡

♡  
♡  
♡  
♡





体験版をご閲覧頂きありがとうございます。

本作品では、基本画像12枚、差分画像93枚、テキスト差分画像160枚以上となります。

本作品もよろしくお願いたします。

背景素材

Lightning\_YHブログ  
進捗報告サイト

きまぐれアフター:彩 雅介

<http://b.dlsite.net/RG41670/>  
<https://ci-en.jp/creator/2337>